



那須岳中腹から見る雄大な那須野ヶ原の眺望

候補地知事 一致団結

国会等移転の候補地が三カ所選定されてから、はや四年が経過しようとしています。先の通常国会では、あらかじめ移転の決議をし、その後移転先地を決定することとなっていました。が、残念ながら結論は先送りとなってしまいました。

こうした状況を受け、各候補地の八人の知事（栃木・福島・岐阜・愛知・三重・滋賀・京都・奈良）は、去る七月十七日、岐阜県高山市に会し、今後の取り組み等について、意見交換をしました。

参加した知事からは、なかなか決断を下さない国会に対する批判的な声も出ました。本県の福田知事は、「国会等移転と地方分権は車の両輪であり、同時にすすめていくべき。そのほうが全国の理

解も得やすい。国会議員に対しては、この問題を忘れさせないよう粘り強い取り組みが大切である」と述べました。

また、他県の知事からは、「今や東京の都市機能は限界に達して



知事懇談会の風景

今後の活動

懇談会では、「今こそ、首都機能移転の決断を！」と題する共同アピールを採択するとともに、今後、移転の実現に向け、三つの候補地がより強力に連携して、粘り強く取り組んでいくことをあらためて確認しました。

その具体的な活動として、
・推進戦略を検討するため、知事の研究会の開催

いる「東京は国民共通の貴重な財産であり、その壊滅は日本に大変な影響を与える」など、東京に国家の中枢機能が一極集中している日本の現状を危惧する声や、「各候補地が引っ張り合いをしている」との印象を持たれてはいけない」「国の機能を分散して移転することも考えるべき」などの意見が出されました。

国会での審議の状況は…

これまで12年にわたり、国会等移転に関し調査審議を続けてきた衆参両院の特別委員会は、先の通常国会において審議の経過等を中間報告としてまとめました。

中間報告では、両院とも「移転を行うべき」旨の総括がされ、衆議院では、移転の規模（縮小）や形態（分散移転）、移転手法（PFI）などの新たな観点から、また、参議院では、防災対応機能、危機管理機能の中枢を優先して移転させる観点から、引き続き両院の密接な連携のもとに検討をすすめるものとした。

これを受けて6月には、「国会移転に関する政党間両院協議会」が設置されました。メンバーには、各会派の議院運営委員会や国会対策委員会、国会等移転特別委員会の理事が

- ・知事と「国会移転に関する政党間両院協議会」メンバーとの懇談会の開催
- ・国民に分かりやすいスローガンを掲げてのPR活動
- ・などについて、三地域が一体となって取り組んでいくことになりました。

また同時に県民の皆さんへは、こうした活動状況や状況等について、タラセていきまうって、注目していきます。

◇問合せ 県国会
TEL 028-160

とちぎ **県民だより**

特別号

国会等移転

編集・発行 栃木県広報課
平成15年10月4日発行

〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20
TEL 028-623-2192 FAX 028-623-2160
栃木県のホームページ <http://www.pref.tochigi.jp/>

国会等移転 候補地知事が 共同アピール

国会では、特別委員会の「移転すべし」との中間報告を受け、新たな協議機関での検討がすすめられています。

候補地八府県知事は、一致団結して国に対する働きかけを強めていくこととしています。

これで首都の防災対策は万全でしょうか？

今年心配された首都圏の電力不足は、冷夏のおかげもあって回避されましたが、ニューヨークでは、大停電事故が発生し、大都市の機能が混乱しました。

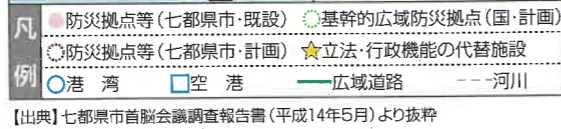
今、東京を大地震が襲ったら…

昨年、東京圏の4都県（東京、神奈川、埼玉、千葉）と3政令市（横浜、川崎、千葉）が共同して、災害時の首都機能のバックアップについて報告書を発表しています。

国会議事堂や中央省庁の臨時代替施設として、都心や横浜、千葉などの東京湾岸に立地する大型施設を使用するというものです。しかし、それらの施設は災害時に被災を免れるのか、免れたとしても被災住民の救済のために優先使用すべきではないのか、そして、何よりも臨時代替施設で復旧の司令塔として十分役割を果たせるのか、などの疑問が残ります。



関東大震災から80年。国の危機管理能力を高めると同時に、移転跡地を木造住宅密集地域の解消に活用するなど、東京を災害に強い都市に再生していくためにも、早急に国会等の移転が必要ではないでしょうか。



対案委員云、国会等移転付加委員云の競争は、どから、衆参それぞれ11名が選ばれ、これまでに2回の会合が開かれました。各政党の代表により、国会全体で議論がすすめられることを期待したいと思います。

国会の審議状況
 イムリーにお知らせ
 たいと思

私たちが国会等移転の早期実現を願っています

「移転の実現に向け、さらに粘り強く」

栃木県那須地域国会等移転促進協議会会長(黒磯市長)

栗川 仁

国会決議以来、既に10年を優に超える審議が続けられていますが、残念ながら候補地の決定さえなされていない状況にあります。国会においては、自ら移転法を定めた責務として、国会等移転の原点を国家的な視野で見つめ直し、移転実現に向けた具体的な道筋を早急に示していただきたいと切に願っております。

また、当協議会は、国会等を受け入れる側として地域住民の理解を深めることを主な目的に様々なPR活動に取り組んでまいりました。今後も、最有力の移転先候補地として、県をはじめ関係機関と連携を図りながら、粘り強く取り組んでまいります。

「国会等移転、地元は準備完了！」

(社)栃木県経済同友会代表幹事

藤井 清

経済同友会は、平成2年12月、「那須野ヶ原に国会を！」と提唱し、以来13年間、「とちぎに国会を」を実現するため、県民の皆様のご理解とご協力を得ながら、推進運動を進めてまいりました。

東京一極集中の是正、災害対策、危機管理等から見て、国会等移転を早期実現させなければ、新しい日本の出発はありえません！

東京は、江戸幕府開府400年で沸いています。都は、400年の間隔で北上しております。

今年こそ、県民の皆様の総意で、とちぎに国会を実現するための元年にしましょう。

「那須“環境新首都”の創造」

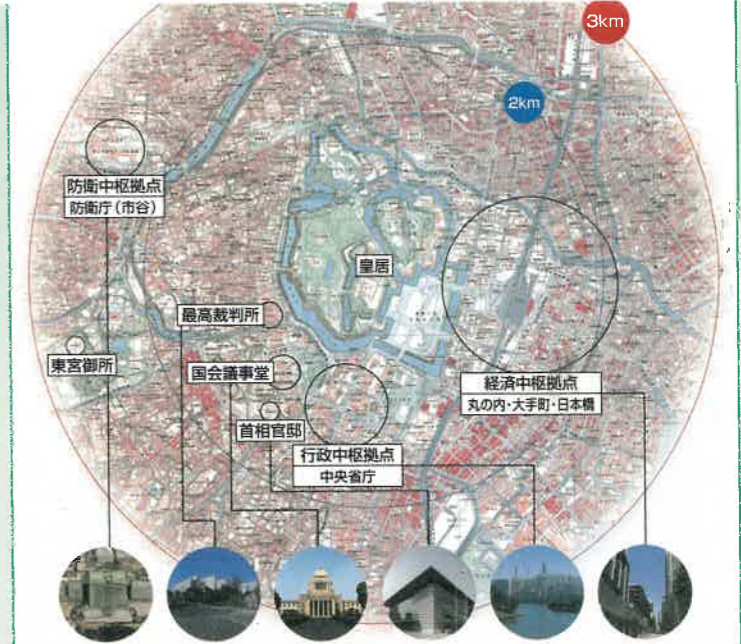
那須大学都市経済学部助教授

和田 佐英子

20世紀。それは、我々人間生活を支えている自然の豊かさ、人間関係のやさしさ、地域社会のぬくもりを犠牲にしながら経済発展を遂げてきた。しかし、人々は真の豊かさを手にはしなかった。

21世紀。それは、やさしさ・ぬくもり・豊かさの調和する生活様式を目指す。これを可能にする「環境共生型都市」の創造がこれからの課題となる。那須にはそれを可能にする顕在的・潜在的資源が存在する。

国会決議から、はや十数年。那須は、さわやかな自然・温かな地域社会と豊かな生活が共生する「環境新首都」として、21世紀の都市モデル開発の場となるべきである。



東京にこんなに集中して大丈夫？

共同アピール文(要約)

首都機能移転については、結論が先送りされる状況となっていることは誠に遺憾である。

そもそも、首都機能移転は、平成2年11月の衆参両院における「国会等の移転に関する決議」以来、国自らがその責任において積極的に進められてきたものである。

東京への人口及び各種機能の集中はますます顕著になってきており、また、一撃で壊滅する国家中枢機能の集中配置という有事体制の観点など、首都機能移転の必要性は平成2年当時にも増して高まっている。

わが国の将来について責任を持つ立場の国会及び政府としては、国家百年の大計を真剣に考え、早急に首都機能移転の実行を決断すべきである。

それにより、国家・国民の安全を守ることはもとより、同時に併行して規制緩和と地方分権を徹底し、今日の閉塞状況を打破し、21世紀型の新生日本の構築に向かうべきである。

われわれ8府県は、「これからの日本は、地方こそが支えていかなければ」という強い責任感と固い信念のもと、日本のために、今後も、より強力に連携し、国会及び政府に対して首都機能移転の実現を強く求めていく。

平成15年7月17日

もっと知りたい方のために

◆「早わかり国会等移転Q&A」を配布中です

「どうして移転が必要なの?」「環境は守れるの?」といった国会等移転に関する皆さんの疑問にわかりやすく答えたパンフレットです。各県民センター、各市町村役場の窓口などで配布していますので、ぜひ、ご覧ください。

また、国会等移転のホームページからもご覧いただけます。



◆ホームページから情報が検索できます



県の取り組み、国の動きなど、国会等移転に関する最新の情報を掲載しているほか、衆議院特別委員会、国土交通省、候補地のホームページへもリンクしていますので、ぜひ、ご覧ください。

<http://www.pref.tochigi.jp/shuto/>

また、iモード版には、東北新幹線時刻表も掲載していますので、ご利用ください。

<http://www.pref.tochigi.jp/shuto/i/>

◆いつでもどこでも出かけます! 出前ミニ講座

県の担当者が国会等移転についての出前講座を行います。10人程度の少人数でも曜日、時間を問わず、ご希望の会場に出向きます。

那須野が原公園のサンサンタワーから、実際に候補地を見ながらのミニ講座も行っています。

お気軽に下記までお問い合わせください。



トピックス

3つの候補地が共同で福岡・東京で啓発イベントを開催

4月にJR博多・東京の各駅で、移転の意義・必要性、各候補地の現状や取り組みなどを紹介する展示コーナーを設置しました。

向会場とも2日間でそれぞれ千人を超える方がアンケートに答えるなど、国会等移転に対する関心の高さが感じられました。



自然と共生する都市づくりを考えるシンポジウムを開催

6月3日、栃木県総合文化センターで開催した、国会等移転「環境共生シンポジウム」に、400名を超える参加がありました。

「国会等移転と環境共生型モデル都市について」と題した基調講演の後、パネルディスカッションが行われました。



北東地域5県(栃木・福島・茨城・宮城・山形)が都内で各種PR活動を実施

4~6月に都内主要駅にPRポスターや電飾ボードを掲出したほか、都内23区で新聞折込広告(下写真)を実施し、「栃木・福島地域」の優位性や東京が住みやすくなるためにも国会等の移転は必要であることをアピールしました。



韓国大統領府の「新行政首都建設推進支援団」が那須地域を視察

7月15日、韓国大統領府視察団が日本の国会等移転の現状を視察するため、那須地域を訪れました。

サンサンタワーから候補地周辺を展望し、「東京都とのアクセスが良く、国有地も多く、景観にも優れた素晴らしい候補地だ」と語りました。



問合せ先 県国会等移転対策室 TEL028-623-2209 FAX028-650-2045 E-mail:newcapital@pref.tochigi.jp ホームページアドレス:<http://www.pref.tochigi.jp/shuto/>

栃木県・浙江省友好提携10周年記念式典



図書交換をする福田知事と孫忠煥浙江省人民政府代表団団長。これらの本は、浙江図書館において「栃木文庫」として、また栃木県立図書館において「浙江文庫」として広く公開されます

九月九日、中国浙江省と本県の友好提携十周年を記念し、栃木県総合文化センターで「記念式典」を開催しました。

式典には、浙江省人民政府代表団と人民対外友好協会代表団の皆さん十名が出席されたのをはじめ、県内各分野から約三百名の方が出席し、十周年を祝いました。

福田知事は、「これまで築いてきた友好の絆をより確かなものとし、今後、さらに友好交流を推進していきたい」とあいさつ。また、孫忠煥浙江省人民政府代表団団長は「より広い分野で実のある交流・協力をすす

浙江省代表団を迎え 十周年記念式典を開催

めていきましよう」と呼びかけました。

記念品贈呈では、これからの交流発展を願い、両県省がそれぞれ百冊の本を交換。本県からは「栃木県史全巻」をはじめ本県ゆかりの図書を、浙江省からは「四書五経」のほか中国を代表する文学、政治、法律、経済、郷土史などが寄贈されました。

このほか、留学や研修などの経験を持つ両県省の若者たちが、交流のなかで得られた人との出会い、心のふれあいなどを語り、さらに交流を深めあうことを誓いました。

記念式典に先立ち、益子県立自然公園・益子の森において「日中栃浙友誼林記念植樹式」が行われました。「日中栃浙友誼林」とは、浙江省から贈られた樹木（種子）を植樹してつくる森。

この日、両県省の代表により、益子の気候風土にもあう中国のケヤキやトチユウの苗二十五本が植樹されました。

これらの苗は、五年前にいただいた種子を県林業センターで大切に育ててきたものです。

植樹の手伝いをした益子小学校の子どもたちは、「中国が身近になった気がする。大切にしたい」と話してくれました。

この「友誼林」は、両県省がこれまで築きあげてきた友好の証として、また、これからの交流のシンボルとして大きく育て、県民の皆さんの憩いの場にしていきたいと考えています。



植樹を終え、益子小の子どもたちとふれあう、孫忠煥浙江省人民政府代表団団長と沈祖倫人民対外友好協会会長

大きな森に育てよう 友好交流のシンボル

「一口メモ」

「日中栃浙友誼林」は、益子の森のほか、県民の森、21世紀創造の森にもつくられます。

一方、浙江省においては本県のヒノキ苗により「中日浙友誼林」がつくられています。

栃木県民の皆さまへ

浙江省と栃木県との友好提携10周年に当たり、浙江省人民政府を代表し心からお祝い申し上げます。この10年間、経済、文化、教育、人材育成など様々な分野における両省県の交流と協力関係は、日増しに広く、かつ、深くなり、実り多い成果を収めて参りました。

21世紀に入り、世界経済の一体化が一層進展していくことが予想される中、中国は世界貿易機関(WTO)に加入したことにより、多様な交流が一層促進されることと思えます。また、両省県の交流の前途は洋々たるものであると確信しております。

私たちは、栃木県の友人の皆様方と「**抓住 机遇、繼往開来**」(共に努力してチャンスを掴み、前人の事業を受け継ぎ将来の発展に道を切り開くこと)、そして、より深く広範な分野で実のある交流と協力を推進していきたいと考えております。共に協力しあい、お互いに利点を得られるよう、一緒に頑張りましょう。



浙江省長 呂 祖善

交流へ

手づくりの

八月三十日、三流ウイークエンドでした。これは、両生にホームステイ、睦を深めてもらおう民、ボランティアホームステイ受け別なことではなし、しみたいですね。えられることも多海外技術研修員したばかりの潘人、この催しに子に熱心に耳を傾めんに驚いたり、に、「とにかく、来、」中国では今、ハ

す。七十年代の日って大切な水の環欲的に語る張さん試験場での研修をを楽しむ週末とよ

とちぎ
県民だより

特別号
浙江省友好提携10周年

編集・発行 栃木県広報課
平成15年10月4日発行

〒320-8501 宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-2192 FAX 028-623-2160
栃木県のホームページ <http://www.pref.tochigi.jp/>

広がる交流の輪
中国浙江省との
友好提携十周年
節目を迎えます。

栃木県と中国浙江省とは一九九三年に友好提携協定を結んで以来、教育、文化、スポーツ、青少年や人材育成など様々な分野で交流を重ねてきました。今年で十周年の節目を迎えます。

人と人、あたたかい
交流が一番の思い出

平成14年度浙江省友好交流員
栃木 美香さん
(宇都宮市)

友好交流員として
浙江
大学へ留学

昨年10月から半年間、杭州市にある浙江大学で中国語や中国文化を学んできました。あつという間の留学生活でしたが、中国をはじめ各国の若い皆さんと交流し、多くの人と直接ふれあえたことが一番の思い出です。歴史や経済など、中国の方の日本に寄せる関心は高く、あらためて自分自身が日本のことを知る機会にもなりました。

近代化のすすむ中国は、まちも人も活気にあふれています。私もそのパワーをもらい、自分をストレートに表現できた気がします。縁あつて今月から、日本企業数社が浙江省に建てたホテルで働くことになりました。これからは仕事を通じて、栃木と浙江省との架け橋になれたらと思います。日本語や日本文化も紹介していきたいですね。



「違い」は「個性」 認めあうことが大切

青年の船で 浙江省を 訪問

平成13年度青年の船参加者

後藤 智行さん
(高根沢町)

2年前の秋、栃木県青年の船に参加し、浙江省の青年と交流する機会を得ました。「ロックソーラン節」を和太鼓を使って紹介したり、音楽や生活習慣について会話を交わしたり。私にとっては初めての海外体験で、日本では「当たり前」のことが通用しないなど、文化や価値観の「違い」に驚くこともありました。

でも、言葉は違っても目や身振りで分かりあえることも多く、「違い」は「壁」ではなく「個性」だということ、そしてそれを認めあうことの大切さを学んだ気がします。精神障害者のソーシャルワーカーとして働く今、この経験が大いに役立っています。「障害(違い)」も「個性」。それを分かりあい、認めあつて、よりよいサポートをしていきたいと思っています。



交流でつなぐ心のきずな

「一日、馬頭町で「国際交流インバウンド」が開催され、県内に住む留学生や研修1をしながら町民との親睦というものが、多くの町が運営を支えています。入れ先の小高さんは、「特、普段の生活を一緒に楽しむ生活様式の違いなど、教へて下さい」と話します。そして、浙江省から来県さん、張さん、方さんの三参加。子どもたちのお囃子かけたり、大きな流しそうめん、初めてふれる日本文化「いい」と感想を話します。公害が問題になっていま本と同じです。農業に「環境管理を学びたい」と意気。これから始まる県農業前に、心あたたまる交流はりました。



一晩かけてつくりあげた流しそうめんは参加者に大好評

(左から)張さん、潘さん、方さん。張さんは県農業試験場で農業環境技術を、潘さんはとちぎリハビリテーションセンターでリハビリテーション医学を、方さんは埋蔵文化財センターで歴史文化の比較について研修します

県内交流 スケッチ

て、すばらしい!

浙江省の見どころ

浙江省は、自然や歴史が調和するすばらしい観光地。なかでも省都・杭州は、「天に極楽あれば、地に蘇州・杭州あり」と詩にも詠まれるなど、古来から水郷の蘇州とともに地上の楽園と称されてきました。また西湖や、天台宗発祥の地として知られる天台山など、魅力あふれる見所がたくさんあります。



杭州



西湖十景のひとつ「平湖秋月」

せいこ 西湖

杭州市の西側に広がる西湖は、いつ見ても美しく、その名所は「西湖十景」として称されるほどです。また西湖は、中国の美女、西施(西子)の名をとって西子湖とも呼ばれています。



「国清寺」

てんだいさんこくせいじ 天台山国清寺

中国天台宗発祥の地。日本の最澄(767~822)もここで学び、帰国後、天台宗を開きました。現在でもたくさんの人が訪れる天台宗の総本山です。



「銭江観潮」

せんとうこう 钱塘江の大逆流

杭州市の南を流れる銭塘江は、海水が逆流して高波ができる「大逆流」が起こることでも有名。特に旧暦の8月は潮の落差が大きく、「銭江観潮」としてよく知られています。



「千島湖」

せんとうこ 千島湖

1959年、新安江水力発電所ダムが造られたあとできた人工湖。湖の中に1078個の島があるため千島湖と名付けられています。総面積は約580平方キロメートルもあり、水が澄んでいることで有名。

データで知る 浙江省



位置
面積
人口
交通
特産品

中国東南沿海揚子江デルタの南約101,800km²(栃木県の約16倍)
4,613万人(栃木県の約23倍)
省都杭州市まで上海から車(高速道路利用)で2時間、列車で1時間30分
中国シルク、龍井茶、紹興酒、金華ハムなどが有名

交流の歩み

1986年(昭和61年) ○浙江省・栃木県が互いに交流窓口を設置
○県民の翼訪中団(第4次)が浙江省を訪問
○「浙江省文化芸術団」が来県し、県民の日に公演

1987年(昭和62年) ○「青年の船」の浙江省訪問を開始
○浙江省からの技術研修員受入れを開始



1988年(昭和63年) ○「浙江省文化芸術総団」が食と緑の博覧会で公演

1989年(平成元年) ○許行貫副省長が来県し、「友好交流に関する協定書」を締結

1990年(平成2年) ○渡辺知事が浙江省を訪問
○西湖もくせいマラソン大会へ本県選手団の派遣を開始



1991年(平成3年) ○「浙江省越劇団小百合」が県内で公演

1992年(平成4年) ○栃の葉記念マラソン大会への浙江省選手団招へいを開始
○県立博物館開館10周年記念「浙江省文物展」を開催
○葛洪升省長が来県



1993年(平成5年) ○萬学遠省長が来県、「友好提携協定書」締結

1994年(平成6年) ○栃木県交響楽団が浙江省で公演
○栃木県友好交流員の浙江省派遣を開始
○渡辺知事、吉成県議会議長が浙江省を訪問



1995年(平成7年) ○国民文化祭(本県開催)に「杭州雑技芸術総団」が参加

1997年(平成9年) ○栃木浙江友好会館「杜鵑樓」竣工、渡辺知事、新井県議会議長、県民訪中団等が浙江省を訪問
○高校生の相互交流事業を開始



1998年(平成10年) ○栃木浙江友好会館に「友誼碑」及び「東坡亭」が落成

2000年(平成12年) ○柴松岳省長が来県
○「浙江省青少年民族音楽団」が全国都市緑化とちぎフェアで公演



2001年(平成13年) ○福田知事が浙江省を訪問、柴松岳省長と会談

2002年(平成14年) ○日中国交正常化30周年記念「日中青年フォーラム」(杭州市開催)に定期協議団が参加